
第 64 回（令和 3 年度） 東京都保育研究大会

すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現をめざして
～子どもがすこやかに育つ保育～

開 催 要 綱

〔日程〕 令和3年5月27（木）・28日（金）・6月3日（木）・4日（金）

※お申込みのプログラムにより日程が異なります。詳しくは内面「5. 本大会の全体スケジュール」をご確認ください。

〔主催〕 社会福祉法人 東京都社会福祉協議会

第 64 回(令和3年度)東京都保育研究大会 開催要綱

1 主題

「すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現をめざして～子どもがすこやかに育つ保育～」

2 主旨

「平成」から「令和」の時代に移り、これから明るい未来につながるよう期待をもって子どもたちの健やかな成長を願い、東京都保育研究大会を計画していました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、令和2年3月からは活動の自粛が呼びかけられ、特に緊急事態宣言・東京都の緊急事態措置等期間の4月～5月は、たくさんの地区で登園自粛となり、当たり前の保育が出来ず新しい生活様式を取り入れながらそれぞれ工夫し保育に取り組んできたことと思います。

現在も新型コロナウイルス感染症は沈静化の兆しも見せず、気を緩めることもできませんが、目の前の子どもたちのために保育研究大会の参加方法を変えて学び合える大会にしたいと考えています。

今、この状況だからこそ日々の保育の中で、子どもの命を預かり、子どもの健やかな成長・発達はもとより、地域の子どもや保護者に対する子育て支援の取り組みと保育、様々な機関との連携、協働していくことも視野に入れて、未来をつくる子どもたちの豊かな心を育てていくために保育実践などについて論議し、研究を深めていきたいと思います。

3 主催 社会福祉法人 東京都社会福祉協議会

4 後援 東京都(予定)・社会福祉法人 全国社会福祉協議会(予定)

5 本大会の全体スケジュール

* オンラインでの開催を基本としています。

* 会場でのご参加を希望される方は、各会場の定員がありますので、先着順となりますことをあらかじめご了承ください。

第 1 部	動画視聴期間
開 会 (30 分)	5 月 11 日 10 時 ～26 日 17 時

※動画視聴のみとなります。参加定員はありません。

第 2 部	動画視聴期間	会場での参加を希望される場合	会場参加定員	オンライン参加定員
基調講演 (90 分)	5 月 11 日 10 時 ～6 月 4 日 17 時	5 月 19 日(水)15-16:30	70 名	なし

※動画視聴のみとなります。

※動画視聴の参加定員はありませんが、会場での視聴は定員があります。申込先着順となりますことをご了承ください。

第 3 部	動画視聴期間	分科会	研究会の開催時間 【会場での参加の場合の時間】	会場参加定員	オンライン参加定員
分科会	5 月 11 日 10 時 ～6 月 4 日 17 時 ＜研究発表各 30 分＞ ※第 2・3・8 分科会は発表グループが一つのため、会場での参加時間が 30 分短くなっています。				
		第 1	6 月 3 日(木) 14:45-17 【13:30-17】	30 名	80 名
		第 2	6 月 4 日(金) 14:45-17 【14-17】	40 名	80 名
		第 3	5 月 27 日(木) 14:45-17 【14-17】	40 名	80 名
		第 4	6 月 3 日(木) 10:15-12:30【9-12:30】	30 名	80 名
		第 5	5 月 28 日(金) 10:15-12:30【9-12:30】	30 名	80 名
		第 6	6 月 4 日(金)10:15-12:30【9-12:30】	40 名	80 名
		第 7	5 月 27 日(木) 10:15-12:30【9-12:30】	40 名	80 名
		第 8	5 月 28 日(金) 14:45-17 【14-17】	30 名	80 名

※分科会は、事前(会場参加の方は当日)に、研究発表動画を視聴いただき、そのうえで、助言者講演、グループワークにご参加いただきます。

※オンライン参加の方で、視聴した研究発表へのご質問受付は 5 月 18 日正午締切となります。

※各分科会のオンライン及び会場でのご参加の定員は上記のとおりです。会場での視聴・ご参加を希望される方は、申込先着順となりますことをご了承ください。

分科会のスケジュール

※オンラインでの開催を基本としているため、研究発表部分は事前に各自で発表動画をご視聴いただいた上で当日、「質疑応答」の場面よりご参加いただきます。

※会場でのご参加を希望される場合には、当日、下記 の時間で発表動画をご視聴いただきます。
(第2・3・8分科会は発表グループが一つのため、下記 の開始時間より30分遅い時間となります。
詳しくは「5本大会全体スケジュール」の第3部「研究会の開催時間【会場での参加の場合】」をご確認ください)

【午前の部】

9:00	10:00	10:15	10:30	11:00	12:00	12:30
分科会発表動画視聴 (会場視聴申込者のみ)	質疑応答	助言者講演	グループワーク	まとめ		

【午後の部】

13:30	14:30	14:45	15:00	15:30	16:30	17:00
分科会発表動画視聴 (会場視聴申込者のみ)	質疑応答	助言者講演	グループワーク	まとめ		

7 会場(※オンラインでなく、会場にお越しになりご参加される場合のみ、ご確認ください)

第2部 基調講演	飯田橋レインボービル 1階CD会議室 〒162-0826 東京都新宿区市谷船河原町 11番地	地図①
第3部 分科会	飯田橋セントラルプラザ 12階会議室 〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸 1-1	地図②

8 参加者 東京都内公私立保育所関係者、福祉・保健・教育・行政関係者、社会福祉協議会関係者、保護者、研究者、学生、その他保育関係者

9 運営 この大会は、東京都社会福祉協議会保育部会常任委員会と大会企画委員会を中心に、保育部会地区委員、会員保育所各位の協力によって運営されます。

東京都保育研究大会は、1954(昭和29)年7月に東京・新宿で開催された東京都保育事業緊急大会を起源としています。
開始以来、都内の公私立保育所関係者が集まり、保育と子ども・子育てのあり方の研究の場として開催しています。

10 参加費 東社協保育部会 会員 1人 5,000円 / 非会員 1人 7,000円(税込・資料代含む)
●基調講演のみ視聴する場合でも参加費は変更ありません。複数分科会への参加をご希望される場合には1分科会につき2,000円で追加のお申込みをいただくことができます。

11 分科会の参加希望及び定員について

- ・複数分科会へのご参加を希望する場合、「10 参加費」の通り追加の参加費用をお支払いいただくことでお申込みいただけます。
- ・オンラインでのご参加の場合には各分科会上限80名、会場からのご参加を希望される場合には、会場の都合上、第2・3・6・7分科会は上限40名、第1・4・5・8分科会は上限30名となります。
- ・基本的に先着順となります。1つの分科会のみ参加希望の場合でもお申し込み時に第3希望まで希望を出していただきます。入力・記入がない場合主催者により分科会を調整させていただきます。

12 お申込み方法

原則、下記の申込サイトから、お申込みをお願いします。

※本サイトは、主催者が参加取りまとめ・参加費徴収の事務を委託する下記の業者で作成されたページです。

(申込サイト URL) <https://www.mwt-mice.com/events/kyhoiku64>

※申込内容入力完了後、登録され合メールアドレスに自動の受付完了メールが届きます。

セキュリティ制限などの都合により申込サイトからのお申込みができない場合に限り

別紙「参加申込登録依頼書」に必要事項をご記入の上、下記の業者まで、FAXにてお送りください。

【お申込み先】 名鉄観光サービス株式会社 MICE センター「保育研究大会」係
担当:波多野、野口、北川 [電話]03-3595-1121 [FAX] 03-3595-1119



〔締切り〕 令和3年4月 15 日(木) 必着

〔参加費等の送金〕

参加申込受付後、ご登録のメールアドレスにメールにて「入金手続きについてのご案内」をお送りいたしますのでそちらに記載の銀行口座に参加費をお振込みください。

なお、振込先は主催者が事務を委託している上記業者の口座となりますので、ご注意ください。

- 参加費のご入金を持って正式な申し込みと致します。
- 原則として、ご入金後の参加費は返還できませんのでご了承ください。
- 参加費の入金確認ができない場合、当日のご参加がいただけない場合がございます。振込案内を確認いただけましたら速やかにお振込みをお願いいたします。
- 参加費の領収証は、原則として金融機関の振込の控えをもって代えさせていただきます。特に領収証が必要な場合は、別途本研究大会主催事務局までご連絡ください。
- 本会発行の請求書や所定の書式への押印が必要であれば、申込時に必要事項をご記入の上、ご連絡ください。
- 誤入金等によるご返金の場合、振込手数料をご負担いただく場合があります。

〔動画視聴に係る専用ページログイン ID・パスワード及び分科会当日の ZoomID 等のお知らせ〕

ご登録のメールアドレスにてそれぞれご案内致します。

〔大会資料について〕

2部以上希望の方は、有償販売(1冊につき 500 円〔税込〕)する予定です。ご希望の場合には、本研究大会事務局までご連絡ください。

14 お問合せ先

開催内容 について	社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 保育部会 保育研究大会担当 (TEL)03-3268-7174 (FAX)03-3268-0635
参加申込み・お振込みについて 参加申込登録依頼書 送付先	名鉄観光サービス株式会社「保育研究大会」係 担当:波多野、野口、北川 営業時間 平日 9:30~17:30・土日祝日休業 〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル LB 階 (TEL)03-3595-1121 (FAX)03-3595-1119

15 会場案内図(※会場でご参加を希望する方のみ、ご確認ください)

①基調講演:飯田橋レイナービル1階 C+D 会議室(〒162-0826 東京都新宿区市谷船河原町 11 番地)

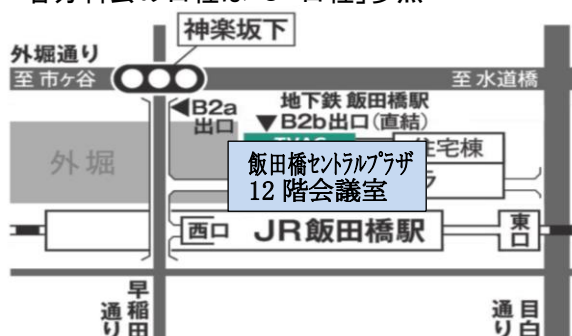
* 5月 19 日(水)15:00~16:30



- ・JR「飯田橋」駅西口から徒歩 6 分
- ・地下鉄有楽町線/南北線「飯田橋」駅から徒歩 5 分
- ・東西線/大江戸線「飯田橋」駅から徒歩 9 分
(地下鉄は B3 出口)

②分科会:飯田橋セントラルプラザ 12 階会議室(〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸 1-1)

* 各分科会の日程は「5 日程」参照



- ・飯田橋駅西口すぐ(右手の橋の先に見える茶色のビル)
- ・地下鉄(有楽町線・東西線・南北線・大江戸線)「B2b」出口より直結

◆ プログラム ◆

◆第1部 開 会（掲載期間：5月11日（火）～26日（水））

- 開会挨拶 東京都社会福祉協議会保育部会部会長
- 来賓祝辞 東京都福祉保健局 少子社会対策部 子供・子育て施策推進担当部長（予定）
- 東社協保育部会活動紹介

◆第2部 基調講演

（掲載期間：5月11日（火）10：00～6月4日（金）17：00、

会場視聴：5月19日（水）15：00～16：30）

「乳幼児期におけるアタッチメントの重要性と保育者の役割」

東京大学大学院教育学研究科 教授
遠藤 利彦（えんどう としひこ）氏



現在、世界の様々な研究を通して、乳幼児期に子どもが経験するアタッチメントの質が、人の一生に亘る心と身体健康や幸福の実現において、とても重要な意味を有していることが明らかになってきています。子どもとのアタッチメントの形成において保育者はどのような心構えを持ってのぞむべきか、また子どもの心身の育ちに保育者がいかなる役割を果たし得るかについて、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

〔プロフィール〕

東京大学大学院教育学研究科・教授、同附属発達保育実践政策学センター（Cedep）・センター長、東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学、博士（心理学）、聖心女子大学文学部・専任講師、九州大学大学院人間環境学研究院・助教授、京都大学大学院教育学研究科・准教授などを経て現職。専門は発達心理学・感情心理学、日本学術会議・会員。主な著書に『乳幼児のこころ：子育て・子育ての発達心理学』（有斐閣）・『「情の理」論』（東京大学出版会）・『赤ちゃんの発達とアタッチメント』（ひとなる書房）など

◆第3部 分科会（※掲載期間及び開催日程は「5本大会の全体スケジュール」参照）

1 子どもの育ちを保障する

保育所の大きな役割は、子ども自身が自ら伸びようとする主体的な力を引き出し、将来、人と手を取りあつて社会の中で生きていくための、基礎となる力を育てることです。子どもの発達支援を中心に据えた保育を展開するために「質の高い保育」について研究を深め、その保育を実践する人材を育成し、研修の充実を図ります。

「すべての子どもに向けて新たな時代の保育実践」～保育所保育指針に基づく質の高い保育を提供する～

- ① 質の高い保育のあり方について研究をすすめ、実践に繋げる
- ② 自己評価等を研究・活用し、保育の質の向上をすすめる
- ③ 利用者の個別ニーズに対応した、きめ細かな保育を提供する

第1分科会 保育所保育指針と保育実践を考える ― 0歳児 ―

【助言者】 東京成徳大学 子ども学部 教授 善本 眞弓 氏

【発表者】 社会福祉法人武蔵村山育成会 瑞穂町立石畑保育園（西多摩郡）

「基本的生活習慣の自立に向けて～大好きな大人との愛着関係を土台にして～」

社会福祉法人省我千代田せいが保育園（千代田区）

「いま改めて『早寝早起き』の習慣づくり～赤ちゃんの睡眠リズムを中心に～」

第2分科会 保育所保育指針と保育実践を考える ― 1歳児 ―

【助言者】 川口短期大学こども学科教授 加藤邦子 氏

【発表者】 社会福祉法人雲柱社 練馬区立光が丘第六保育園(練馬区)
「保育士三年目の私が子どもたちから教わったこと～室内環境～」

第3分科会 保育所保育指針と保育実践を考える ― 2歳児 ―

【助言者】 青山学院大学教育人間科学部教育学科准教授 高櫻 綾子 氏

【発表者】 社会福祉法人志正会 大久野保育園(西多摩郡)
「発達段階を意識した遊びと生活～大久野保育園2歳児クラス～」

第4分科会 保育所保育指針と保育実践を考える ― 3歳児以上児 ―

【助言者】 東京女子体育短期大学 児童教育学科 准教授 村石 理恵子 氏

【発表者】 渋谷区公立保育園学習会(渋谷区)
「年齢(4.5歳)に合った運動遊びの指導方法を学ぶ～運動遊びの中で育つもの～」
稲城市立 第五保育園(稲城市)
「非認知能力を育む保育を目指して～かっぱおやじと過ごした1年～」

第5分科会 配慮を必要とする子どもや家庭への支援にむけて

保育現場において、発達障がい疑われる子ども等、配慮を必要とする子どもの増加が指摘されています。このような状況の中、保育をする上で大切なのは、保育士の関わり方や考察に対して職員間で話し合い、園全体で共通理解を図るとともに保護者との信頼関係を構築し、保護者の悩みを受け止め、一緒に考えていくことで保護者支援につなげていくことです。

子どもの家庭を支えることで、その生活体験が障がいを抱える子どもの発達を支え、同じ時間を共有しながら一緒に過ごしている健常の子どもの成長を支えています。

本テーマでは、このような子どもや保護者へのより良い支援を目指して実践研究を深めます。

【助言者】 臨床発達心理士・スーパーバイザー 橋場 隆 氏

【発表者】 社会福祉法人ダビデ会 昭島ナオミ保育園(昭島市)
「全ての子ども達と共に歩むために～小学校就学を視野に入れた連携のカリキュラム作成の取り組み～」
社会福祉法人ユーカリ福祉会 東久留米市上の原さくら保育園(東久留米市)
「集団の中の個別指導」

第6分科会 職員の資質向上を図る

待機児童解消に向けて、各地でさまざまな保育所が新設され、保育所職員の雇用形態、就業形態が多様化しています。保育の現場では、未来を担う子どもたちの心身の健やかな成長・発達のため、保育内容の充実を図るとともに、チームワークの形成、職場全体のスキルアップがより一層求められています。

本テーマでは、保育所職員の資質向上に向けた効果的・具体的な実践、そして保育従事者に求められる自己啓発のための取り組みについて、研究を深めます。

【助言者】 東京家政大学子ども支援学科 准教授 小櫃 智子 氏

【発表者】 立川市立公立保育園研修担当委員会(立川市)
「自主研修の取り組み～自ら考え自ら学ぶ自主研修の取り組み～」
文京区公立保育園共同研究(文京区)
「豊かな教材から生まれる保育者の教育的視点～教材の事例を通して幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を考える」

2 多様な連携と協働で、子育てライフを支援する

子どもが心身ともに豊かに成長するためには子どもと家庭を一体的に捉えて、その家庭を支援することが必要です。また、子育てへの不安や児童虐待への対応等、子育て家庭への支援は地域社会を基盤とする多面的な取り組みの充実が求められています。保育所は様々な機関・組織・団体や住民が連携し、子育て支援の拠点として、すべての家庭を対象とした取組を考えていきます。

- ① 保育所を利用する保護者への支援を充実する
- ② 地域子育て家庭への支援を充実する
- ③ 子育て・子育て支援のネットワークの中で保育所の役割を發揮する
- ④ 地域の保育機能を強化する
- ⑤ 子育てへの関心を高める
- ⑥ 子育て文化につながる活動を広げる

第7分科会 子どもの心と身体の食育活動を考える ～家庭や地域との連携による食育の推進～

保育所保育指針で「食育の推進」が取り上げられ、子どもが主体的に参加し、食事を楽しくすることが重要視されています。子ども同士、保育士や給食担当者や地域の人たちと一緒に食べたり食事を作ったりすることを経験して子どもが人と関わる力を育てることも求められています。そのためには、調理する人への感謝の気持ちが育つようまた、「美味しく、楽しく食えること」が大切であり、子どもが安心して食べられる環境にあること、保護者との信頼関係や職員間での連携が必要です。

本テーマでは、改めて食を通じた学びの機会を充実させるための保育実践、保護者・地域と連携した食育、食物アレルギーへの対応について研究を深めます。

【助言者】 大妻女子大学短期大学部家政科食物栄養専攻 専任講師 小野 友紀 氏

【発表者】 大田区立保育園栄養士会(大田区)

「新保育所保育指針に沿った食育の取り組み」

社会福祉法人高原福祉会 村山中藤保育園「櫻」(武蔵村山市)

「子どもが興味を持ち、自ら考えて食べる。」

第8分科会 保育所の持つ機能を保護者支援・地域支援・保幼小の連携に活かして

～子どもにとってより良い育ちを求め その支援を考える～

地域のつながりが弱まる中、核家族化など家庭形態の変化により、子育てに孤立感・孤独感を深めている家庭が増加し、その支援や援助のあり方も様々になっています。保育者は、保護者が子育ての喜びが得られるように、気持ちを読み取る力をつけながら、思いや不安の解消に向け、子育て力の向上につながるよう保育所の機能を活かした支援が求められています。さらに貧困に起因する課題への対応、児童虐待予防など地域の関係機関との連携・協働を持ってすすめるべき取り組みも多々あります。

本テーマでは、子どものより良い育ちに向け、多様な機関との連携・協働の進め方や保育所が果たす役割について研究を深めます。

【助言者】 白百合心理・社会福祉研究所 所長 青木 紀久代氏

【発表者】 社会福祉法人松栄福祉会 羽村まつの木保育園(羽村市)

「保育園が街の中にカフェを作ってみたら…～地域の中での子育て支援～」